学校法人金沢学院大学　清鐘台通信　第99号　2004年8月4日

世界の若手行政官が来学

美術工芸の制作に関心

漆芸の制作実習を見学する政策研究大学院大学の留学生一行＝6号館

政策研究大学院大学（東京）に留学している世界１２カ国の若手行政官ら１５人は７月２９日、研修旅行のため石川県入りして金沢学院大学を訪れ、懇談や実習見学などを通じて本学の教育内容に理解を深めました。留学生一行は、美術工芸の制作視察で日本特有の蒔絵や沈金に関心を示し、相次いで質問する姿も見られました。

石田学長歓迎挨拶「母国と世界のための人材に」

石田寛人学長は歓迎挨拶で、金沢が伝統文化と学術の街であると紹介し、「研修を通じてそれぞれの母国と世界のために貢献できる人材になってほしい」と激励しました。

一行は、高光一生美術文化学部美術工芸学科長らの案内で、日本画、洋画、漆芸、陶芸の制作実習を見学しました。日本画では、画材の絵の具や和紙について、洋画では、一年生から段階的に進めていく指導法などについて説明を受けました。

日本独特の漆芸では、沈金、蒔絵の細かな表現技法に留学生の関心が集まり、刷毛や筆の素材についての質問もありました。陶芸では窯の内部をのぞきこむ姿も見られました。

一行は、石田学長が政策研究大学院大学の特別顧問会議メンバーであることが縁となり、来学しました。

講演する中西教授＝市内

「日中の思考」「自分史」演題に

文学部公開講座　林、中西教授講演

金沢学院大学文学部の公開講座は七月二十五日、金沢市西町教育研修館で開かれ、国際文化学科の林暁光教授が「日本と中国の思考パターンの比較」、基礎教育機構の中西茂行教授が「自分史ブームと戦後の日本社会」と題して講演しました。

このうち中西教授は、春日井市の自分史活動などを紹介し、「自分史は自己の内面の暴露でなく幅広い体験を解凍して自己承認すること。自分史をまとめることは老後を前向きに生きるパワーの源になる」と述べました。

１回戦で先制打を放った尾崎選手＝7月１６日、金沢市民球場

美術文化コース人気　東高校で学校見学会

金沢東高校の学校見学会は七月三十日、校舎内で行われ、金沢市内などから集まった二百三人（男子四十九、女子百五十四人）が公開授業や部活動の見学などを通じ金沢東高校の教育内容に理解を深めました。

生徒はスクールバスを利用して集まりました。ビデオと説明で学校の概要を聞いたあと、情報、理科、美術の公開授業に臨みました。美術文化コースの制作体験＝**写真**＝には女子生徒が三十人ほど集まる人気でした。

８強進出はならず

金沢東高、手応えの夏

第八十六回全国高校野球選手権大会石川大会に出場した金沢東高校チームは、３回戦でシード校の小松と対戦して１－８で敗れ、ベスト８進出はなりませんでした。

しかし、１に１－０で逃げ切る好ゲームを展開し、センバツへの出場権がかかる秋の北信越大会へ手応えを感じさせる大会でした。

３試合を通じて、１年生ながら四番を打った尾崎選手は通算８打数４安打４打点の好成績を挙げ、今後の活躍に期待を集めました。

岡田史郎部長は「対明倫戦で、やればできるということを学んだと思う。新チームに期待します」と話しています。

戦で鵬学園に５－１で快勝、２回戦では野々市明倫

発行・広報室